

第1回西脇市総合教育会議 議事録

平成27年6月24日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議
議事録

1 開催日時

平成27年6月24日（水）午後2時00分～午後3時15分

2 開催場所

西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室1

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	内橋和彦
教育委員	小澤陽美		

(2) 事務局

教育部長兼教育総務課長	森脇達也
教育総務課主幹	清瀬泰弘
学校教育課長	竹内誠
生涯学習課長	山本昇司

4 傍聴者

4名

5 会議の概要

(1) 市長あいさつ

(2) 総合教育会議の概要について

(3) 協議・調整事項

ア 会議の運営に関する要綱の制定について

(ア) 西脇市総合教育会議運営要綱

(イ) 西脇市総合教育会議傍聴要綱

イ 教育、学術及び文化振興に関する総合的な施策の大綱の制定について

(4) その他

西脇市総合教育会議 議事録（平成27年6月24日）

○事務局

それでは、ただ今から、第1回西脇市総合教育会議を開会いたします。この会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置されており、市長が招集するものであります。

教育行政の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置等を、市長と教育委員会で協議、調整する場であります。

それでは、最初に片山市長から御挨拶をいただきます。

片山市長、よろしくお願ひいたします。

◎片山市長

こんにちは。第1回の総合教育会議を開催させていただきます。新教育委員会制度では責任体制と管理体制の明確化を図ろうということですが、独立した執行機関としての教育委員会制度は引き続くものであり、今後とも一線を画していくべきであると考えています。法改正を踏まえた全国的な流れの中で、市長部局と教育委員会部局が西脇市の教育やまちづくりについて、垣根のない意見交換をしていくことが大事であると思っております。また、総合教育会議は「大綱」を定めることが目的ではなく、「大綱」を定めたうえで何を行っていくかが重要になります。

それに加えて、私は今年度の施政方針の中でも「教育の復活」をうたっております。とりわけ学校教育では、小中学校における基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目標とする学力向上事業、小中学校の校種を越えた中学校区連携教育システムによる、本市にふさわしい小中一貫教育の在り方、就学前教育・保育の推進に関する基本方針に基づく円滑な認定こども園化の推進に取り組んでいます。また、ハード面では、今後の人口減少に対応した学校の施設整備の方針の検討をしていく必要があると思ひます。

これらの課題の解消に向けて、このような公の場で意見交換の機会を設けることで地域の様々な教育に対する声に、市長部局、教育委員会部局お互いがズレなく一体となって対応できる体制づくりを進めていきたいと思ひますので御協力を願ひいたします。

○事務局

ありがとうございました。

この後、議事に移らせていただきますが、進行については市長からお

願いいたします。

◎片山市長

お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。

本日は、第1回目の会議ということでございますので、初めに、次第の2、「総合教育会議の概要について」を事務局から説明させていただきます。願いいたします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

説明が終わりました。何か御質問ございませんか。

◎片山市長

御質問がないようですので、「総合教育会議の概要について」を終わります。

◎片山市長

次に、次第の3「協議・調整事項」に移ります。まず、(1)の「会議の運営に関する要綱の制定について」事務局から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

説明が終わりました。何か御質問ございませんか。

◎片山市長

御質問がないようですので、これより採決に入ります。「西脇市総合教育会議運営要綱」及び「西脇市総合教育会議傍聴要綱」を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

————— [「異議なし」の声あり] —————

◎片山市長

御異議なしと認め、全員の承認といたします。それでは、「案」を削除願いまして、会議の運営及び傍聴につきましては、今後この要綱に基づいて行ってまいりたいと思います。

◎片山市長

それでは、「運営要綱」に基づきまして、会議の議長につきましては、私が務めさせていただきます。また、議事録署名委員につきましても、私から指名をさせていただきます。藤原委員、小澤委員、両氏にお願いします。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の議事録の承認とみなしますのでよろしく願いいたします。

◎片山市長

次に、次第の3、(2)、「教育、学術及び文化振興に関する総合的な施策の大綱の策定について」を議題といたします。事務局から説明をお願

いたします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

説明が終わりました。私としましては、今、説明にございました「西脇市教育振興基本計画（後期）」をもって大綱とすることが妥当であると考えますが、何か御意見、御質問はございませんか。

○委員

市長は教育振興基本計画イコール大綱とお考えですか。

◎片山市長

今、事務局から説明がありましたとおり、「西脇市教育振興基本計画」は、本市における教育行政の指針として、平成25年度から30年度までの西脇市が目指すべき教育の姿が明らかにされています。平成26年3月に前期計画を受けて見直しがされていますし、教育、文化、スポーツ等の各分野を網羅し、かつ、市の実情に応じて策定されておりました、現時点ではそのように考えております。

○委員

計画どおりに進むよう環境を整えていくということが重要ですが、環境を整えていくには、これを基礎としていくということだと思います。

○委員

私は、前期から後期に移るときにも教育委員をさせていただいてまして、前期での結果を検証して後期が定められましたし、ちょうど後期に代わるときに市長と教育長も代わられました。内容についても、十分に吟味されていると思います。「振興基本計画」を大綱とすることについては賛成します。

○教育長

今、説明いただきました「振興基本計画」は資料も概要版で示してありますが、約90ページにも及ぶ分厚い冊子で策定されています。あまりに膨大すぎますので今日は概要版でお示ししています。これは平成25年度の末に決裁をとって、平成26年度から後期5年間のスタートをしたわけであり、我々はこれに基づきまして教育施策を進めております。多種多様な方に集まっていたいただきました審議会での最終決定を経ていきますので、大綱として位置付けるには非常に適していると考えています。

◎片山市長

ほかに御意見、御質問等はございませんか。

教育長や委員の御意見を伺っておりますと、基本的には「西脇市教育

振興基本計画」を大綱にするということによいという意見です。

先ほど申し上げましたが「西脇市教育振興基本計画」は、本市における教育行政の指針として、平成25年度から30年度までの西脇市が目指すべき教育の姿が明らかにされています。策定に当たっては、学識経験者、教育委員、学校関係者、庁内検討委員会など広く関係者や市民からの意見が取り入れられています。また、教育、文化、スポーツ等の各分野を網羅し、かつ、市の実情に応じて策定されておりまして、私自身も共感するところが多くございます。

◎片山市長

それでは、これより採決に入ります。「西脇市教育振興基本計画（後期）」をもって、現時点における市長が定める大綱とすることと決定することに御異議ございませんか。

————— [「異議なし」の声あり] —————

◎片山市長

御異議なしと認めます。よって次第の3、(2)、「教育、学術及び文化振興に関する総合的な施策の大綱の策定について」は「西脇市教育振興基本計画（後期）」をもって市長が定める大綱と決定いたします。

◎片山市長

次に、次第の4、「その他」ということですが、せっかくの機会ですので、教育に関する意見交換の場としたいと思うのですがいかがでしょうか。御発言されたいことがおありでしたらお願いいたします。

○委員

学力向上に向けた取組のことです。ゆくゆくは日本一を目指すということですが、できる児童・生徒はさらにできる、それについていけない児童・生徒もついていけるようにする、置いてきぼりにさせない教育の在り方というのが非常に重要ではないかなと思います。その学期ごと、その年度ごとにその児童・生徒が受けなければならないカリキュラムがあると思いますが、それをしっかり身に付けさせることが重要ではないかと思います。そのためには、安心できる教育環境を整えていくことが大切だと感じています。

◎片山市長

ありがとうございます。伸びる子は伸びるけれども置いてきぼりになる子を出さないように、学校の環境も含め配慮をすべきであるとの御意見ですね。その観点を含めて何かありますか。

○委員

本日で学校訪問が終わりましたが、1年生、2年生の時に落ち着いて

勉強をするという癖をつけると、3年生以降の学力向上に結び付いていくのかなと思いました。3年生、4年生の「ギャングエイジ」といわれる学年のはじめ方には良い、悪いがあって、単に騒ぐだけではなく良い方向にはじめてほしいです。1年生の時に落ち着いて勉強をさせるには、幼稚園や保育園での生活というのが大事になってきます。今、西脇市が進めている幼保一元化の中で、就学前の教育というものはすごく大事だと思います。そこにある程度力を投入して、学力の向上というのであれば、その頃に落ち着いて勉強ができる、しっかり話が聞ける、ということに身に付けさせるということが重要だと感じています。

◎片山市長

ありがとうございます。学力向上を図る前に就学前の教育に力を入れたらという御意見ですね。

○委員

学力の底上げという意味で、放課後学習支援の先生に分からないことを聞くとか、漢字や計算を繰り返す、ということが本来であれば自宅でしなければならぬところを、学校の先生が放課後に残っていただいていることがありがたくて、それが学力向上に繋がるいい手段だということを校長先生がしきりにおっしゃっていました。ただ、そこにお世話になるだけでなく、西脇市全体で保護者が子どもにもう少し勉強をさせる、もう少し子どもに関わる、といったところでいいアイデアがないのかなと思いました。

◎片山市長

本来、家でしなければならぬことを保護者がするようにできる「しかけ」づくりということですね。

○委員

はい。昨日も学力向上講演会で菊池先生が、先生方に講演なさったのを聞いておりましたが、保護者に何かをとるところです。どうすればいいかということとは分かりませんが。

○笹倉教育長

本市の教育委員会といたしまして、学力向上策を一番にあげて取り組んでいるところでございますが、昨年、就任させていただいてから学力だけを伸ばそうとしているわけではありません。今、大綱に決めていただきました「西脇市教育振興基本計画」のなかには、「バランスの良い人格の育成」ということも入っておりますので、その上に立って現状を見た上で学力を伸ばしていこうということでもあります。そういう教育委員会のスタンスでおりますので、学力のことだけを言っているわけでは

ありません。市長がおっしゃる「教育の復活」というのは教育には非常に広い意味もございますので、その点はお任せいただき、「見える化」を図りながら進めていきたいということを考えております。

現状を申しますと、本市の学力を上げるためには、兵庫教育大学と連携をしております、具体的には浅野良一教授と連携を取りながら、システムを構築していく方向で進めております。現場の先生方の刺激になることが必要ですので、今、委員さんからも出ていました菊池先生、北九州市の小学校の先生ですが、NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」で御活躍が放送されました方と、連携が取れはじめまして、今で2回、3月と昨日と講演会を開催できました。昨日も夜の7時から9時まで、教員が約250名いる中で出席者が90名ありました。動員をかけておりません。約3分の1の先生が2時間、研修を受けてくれたということです。非常に分かりやすい本日からでも役に立つ話でした。西脇市としましては、地に足をつけた教育を進めていって、学力を向上させていきたいと思っております。私の任期があと3年ありますが、その3年間の間にはある程度の目途が立つことを目指して、子どもたちの生きる力や学力を伸ばしていきたいと考えております。

一方、就学前教育ですが、少子高齢化の中でも特に少子化が心配なことでございまして、今、幼稚園から中学校までで3,600人の子どもがいますが、そう遠くないうちに3,000人程度に減っていくことは想定されています。そうすると、例えば高等学校の定員の問題などいろいろなことが出てきますし、学級数の問題、学校がほとんど1学年1学級化に進んでいっているということがあります。そういったことに対応していくことも考えていかなければならないと思っております。就学前教育から初等中等教育を見据えて教育に取り組んでいかなければならないと考えています。そこに委員さんが先ほどおっしゃった、親がしなければならないことなど、教育課題がたくさん見えてきておりますので、分担を図ることなども視野に入れて今後検討を進めていきます。学校でできること、地域でしなければならないこと、保護者としてしなければならないこと、これをどういう形で具体化していくかということ。オール西脇で取り組む必要があるのではないかと思います。それが、この総合教育会議であると思っております。市長と今後、連携を取りながら進めていきたいと考えています。

○委員

先ほど教育長からありました連携ということについて、高等学校との連携も考えておられるのでしょうか。

○笹倉教育長

まだ具体的にどうということはありませんが、教育は人材を育成すると言いますか、人を育てていきますので、中学校を卒業し、義務教育が終われば、それで終わりというわけにはいきません。西脇には非常に優れた県立高等学校が3校あります。西脇高等学校、西脇工業高等学校、西脇北高等学校です。それぞれに西脇市と非常に深い関係を持っています。ボランティア活動であるとか、スポーツの振興、学力であるとか、生活情報科などは県下を見ても他にこういう科はございませんので、そういったところで市とタイアップしていることがあって、非常にパイプが太い学校ばかりですので、そういうところは活用していくということです。私は昨年度まで西脇北高等学校の学校評議員でした。そういったところを深く感じながら学校経営を見させていただいていました。そしてもう少し幅の広い視野で教育をとらえていく必要があるのではないかと思います。

○委員

やはり、地元で育って、いったんは外に出るけれども、帰ってきて活躍の場ができるという政策や施策などが必要ではないかと思います。

◎片山市長

まず、高校につきましては、どこの市も同じだと思いますが県立高校は監督官庁が違いますので、そんなに深い交流があるわけではないと思います。教育長がおっしゃったとおり、西脇市にある3つの県立高校はそれぞれが県内でも誇れる学校だと思っています。北高校はボランティア、工業高校はスポーツ、西脇高校は日本で1つだけに選ばれたスーパープロフェッショナルハイスクール。この3つの素晴らしい高校がそろっている小さなまちというのは、他にないと思います。このタイミングで市として、教育委員会として高校に関わっていく、それがひいては「まち・ひと・しごと」の地方創生の若者が西脇市に帰ってくるという部分の繋がりにならないかということを考えています。これは市の政策的なことでもありますけれども、より多く関わっていきたいと思っています。これが1点。

もう1点ですが、これは兵教組の大会の時に申し上げましたが、夜の10時半から11時にある中学校の前を通れば、ほぼ明かりがついているといった状況です。教員のどなたかがいらっしゃって仕事をされているということですね。最近は少し早くなったようですが、ほぼ毎日です。現場の先生方が疲弊されては意味がないし、先生方がいきいきと仕事をされるからこそ、生徒たちもいきいきとするものだと思います。だか

先ほど事務局から、ノーテレビ、ノーゲームデーのお話がありました
が、素晴らしい取組だと思います。これを全市的に広げていったら面白
いと思いますが、できるのでしょうか。

○事務局

桜丘小学校の取組ですが、中学校区の連携になると思いますが、確実に
黒田庄中学校区では、家で読書をしようという取組は進んでいます。
そういった連携の情報は校長会を通じて各学校に流していますが、それ
ぞれの学校区によって考え方がありますので、いいところを吸収しても
らうという方向で進めていきたいと考えています。

◎片山市長

ノーテレビ、ノーゲームデーというのはどれぐらい前からありますか。

○事務局

3、4年前からは実施しております。

◎片山市長

何が言いたいかと言いますと、4年前に取り組まれたことが、他の中
学校区では全く実施していないといったことは、広がっていないという
ことですね。校長会だけでなくPTAですとか、もっといろんなチャン
ネルで広がっていかないと、校長先生が積極的でなければ実施できないと
いうことになります。

○事務局

読書をすることは学習力をつけていくうえで大切な事であると各学校
も認識してしまして、ノーテレビ、ノーゲームデーというのは広がって
おりませんが、他に「読書貯金」という取組がありますが、そちらは、
読書を促す工夫として各学校に広がってきています。

◎片山市長

そういう「いいこと」を教育委員会でも、教育長を通じて各校長に教
育委員会の総意であるから広めてくださいと言うことはできるのでは
うか。

○笹倉教育長

学校の評価をそれぞれ学期ごとに出させております。いろいろな項目
について目標を上げさせます。達成がどの程度できたかということをも
学期ごとに検証します。それを校長会を出して意見交換をさせます。指
導訪問を通じて感じたことや委員さんの御意見も伝えます。それを受け
て学校で、それぞれの地域の特色であるとか、学校の構造であるとか、
児童・生徒の数とか条件が全く違いますので、難しい部分もやはりある
と思います。それを強制することは、私はしないつもりです。一斉にする

ということは難しいと思いますが、議論をしていく必要はあると思います。

◎片山市長

もう1点ですが、楠丘小学校の学校評価のデータのところで「学校は楽しいですか。」という問いに対して、「はい」または「どちらかと言えば、はい」と答えた児童の数が約89%です。非常にいい評価です。保護者に対する、「学校行事に学校、地域、教職員は協力して取り組んでいますか。」という問いについては、「できている」と「どちらかと言えば、できている」を合わせると約92%です。ものすごく高いです。何が言いたいかということ、教育長が言われたように、学校の環境が違うというのはありますが、アンケートなどのある一定の部分は、同じ設問にするべきではないかということです。同じ対象、同じデータがないと小中学校間での比較検討ができません。若しくは、問題点が抽出できないです。共通のデータがないと、改善点が見つからない。せっかくアンケートなどをそれぞれが取られていると思いますので、統一したらどうかと思います。そのあたりはいかがですか。

○笹倉教育長

楠丘小のデータは全国学力・学習状況調査のものですか。

○事務局

学校評価ですので、学期ごとの子どもたちの振り返りの結果になると思います。学校ごとに同じような設問で、同じような結果になっているとは思いますが、市長がおっしゃるように何点かのポイントが必要かと思えます。

◎片山市長

それぞれ、学校でアンケートを取られているのであれば、同じ学校で年次的な変化を取ることも大事ですし、同じ文言で、同じ相手に同じアンケートを取って水平展開をすると、同じ労力でより広い観点でデータが取れて、そのデータを元にして議論するのが会議のあるべき姿ではないかと思えます。どうでしょうか。

○笹倉教育長

どのようなアンケートを取っているかというのは、今、課長が申しましたように、似たり寄ったりです。それを一度整合させて、何を重点的に共通して聞くかということのを改めて教育委員会から指示するというのは、学校自体もまた調査かということを感じるでしょうし、今やっていることの中で共通するものを取り出してやろうということはできます。

いずれにしろ、西脇で育つ子どもたちがふるさとを愛して、学ぼうと

する意欲とか協調性がある子どもを育てるとか、常識的なことをきちんと身に付けさせるということが出来る教育というのが一番だと思います。総合教育会議というのは、市長の意見を聞かせていただけるということで、我々としては非常にありがたいです。

○事務局

今まで、お聞きしておりますと学力向上も含めて学校教育的な観点でのお話を中心でした。総合教育会議というのは社会教育も含めた教育についての議論をする場と認識しています。私は、社会教育的な立場におりますので、感想になりますが、教育長が「学力だけ伸ばすのではなく、バランスの良い人格を形成する。」ということをおっしゃいましたが、「雪が解けたら」という話で、雪が解けたら「春になる。」のか「水になる。」のか。その2つの選択の中で、社会教育というのは感性を伸ばすという部分が大半を占めていると思いますので、「雪が解けたら春になる。」という子どもたちの感性というのを伸ばしていければと思います。文化的な部分というのはそういう感性を伸ばしていきます。感性を伸ばす教育を進めていけたらと思います。

もう1点は、2週間ほど前の新聞に教職員のノー残業デーの記事が載っておりました。市長がおっしゃいましたように教員が疲弊してしまえば子どもにどういった影響があるのか、といったことを興味深く記事を読みました。

◎片山市長

教職員の「ノー残業デー」というのは設けてありますか。

○事務局

はい。「ノー残業デー」も「ノー部活デー」というのも各学校で設定はしています。先生方もいろいろな仕事や会議がありますので、完全に残業をしないとといった状態は難しいです。保護者の理解ということもないと進められませんので、そのあたりのアピールもしていきたいと考えています。

◎片山市長

3日ほど前の日本経済新聞に教育の残業時間に対する調査のことが載っておりました。その中で、残業が長い教員ほど「やりがい」を強く感じているという結果が明らかになったということです。疲弊をするまでの仕事というのは問題があります。ただ、データによると、残業が増えるほど「やりがい」を強く感じる教員の数は上昇しているという結果が出ています。感覚で物を言うのではなく、できるだけデータで議論することです。そうでなければ、検証と次の代案がはっきりしないので、大

事にしていかなければなりません。

○笹倉教育長

難しいですね。それを表に出しすぎるのもどうかとは思いますが。

◎片山市長

これは、新聞に出たということでもた、別のデータもあるのかもしれませんが。

○笹倉教育長

今、いろいろな話をいただきました。定例で毎月教育委員会を開催しておりますが、総合教育会議は市長も出席いただいて、大きなテーマについて議論したり検討課題をいただいたりと、非常に有意義な会議だったと思います。学校教育、社会教育併せて進めていきたいと思っています。

◎片山市長

ほかに御意見等ございませんか。

御意見がないようですので意見交換を終わります。事務局から連絡事項などありますか。

○事務局

次回の総合教育会議の開催につきましては、協議題との関係もございしますので10月頃を考えております。事前に事務局から調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

○事務局

それでは、これもちまして、第1回総合教育会議を閉会いたします。御苦労様でした。

————— 閉 会 —————